

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

| | |
|--------------|---|
| 会 議 名 | 令和 5 年度第 3 回高松市スポーツ推進審議会 |
| 開催日時 | 令和 5 年 1 0 月 1 8 日(水) 1 8 時 3 0 分～2 0 時 0 0 分 |
| 開催場所 | 高松市役所 1 1 階 1 1 0 会議室 |
| 議 題 | 第 2 期高松市スポーツ推進計画(案)について |
| 公開の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上記理由 | |
| 出席委員 | 今井委員、大西委員、岡委員、岡部委員、藤尾委員、元木委員、山根委員、吉田委員、米村委員(欠席 2 名) |
| 傍 聴 者 | 0 人 (定員 5 人) |
| 担当課及び 連絡先 | スポーツ振興課 8 3 9 - 2 6 2 6 |

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

- 1 大西会長挨拶
- 2 事務局から、会議成立の報告後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開とすることを決定した。
- 3 議題
事務局から、「第 2 期高松市スポーツ推進計画(案)」について、説明した。
- 4 主な意見、質疑等については次のとおり
○第 2 期高松市スポーツ推進計画(案)について

【議長】

事務局より説明のあった資料について、質問等はないか。

【A 委員】

スポーツ推進計画については印刷してどこに配るか。また、ホームページで誰でも閲覧できるようにするか。

【事務局】

策定後の 3 月下旬頃にホームページにもアップする予定であり、400 部印刷予定。教育機関やスポーツ協会、関係機関に配布予定。

【A 委員】

学校には配布しないか。

【事務局】

部数に限りがあるので、配布しない予定。

【B 委員】

本計画は、市民が「スポーツをたのしく！かっきあふれる！まちづくりにより！つなげよう！」というのが大前提で作られていると思うが、その中の大きな目標の数字として、成人の週 1 回 70%があるという認識でよいか。

また、本計画は、子どもから大人のことまで書かれているので「成人」に限定することに違和感がある。この目標について、「成人」ではなく、「多世代の」や「子どもから高齢者まで」に変更することはできるか。

会議経過及び会議結果

【事務局】

国の計画及び現行計画を踏襲し、「成人」としている。

また、今回の計画策定にあたって御意見をいただいた中で、市に響いたのは、どこをターゲットとしていくかという御意見である。ターゲットを考えたときに全世代がターゲットとなり、新しく「スポーツによる健康増進」という基本施策を設け、幼児期、働く世代・子育て世代、高齢者、障がい者というターゲットごとに細かく取組内容を決めている。

今回実施したアンケートでは、15歳以上の市民を対象に行っており、その結果が51.4%（18歳以上）である。70%の目標値を達成していない現状を踏まえて、次期計画においても70%と設定している。年代別の週1回あたりのスポーツ実施率を見ると、10代は70%を超えているため、もし、成人未満を含めて全世代の市民を対象にアンケートを実施し、集計すると、51.4%という現況値が高くなる可能性があり、目標値についても、再度検討し直す必要が出てくる。

市としては、実施率の低い20代、30代の実施率向上を目指しており、成人（18歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率を70%にしたいという思いがあるので、基本目標を「成人」としている。

本計画は中間年に見直しを行う予定としているため、その際、基本目標について、皆様と議論させていただきたい。

【B委員】

10代は体育の授業があるので、実施率は高くなる。各年代ごとの実施率の目標値を立てることはできないか。

【事務局】

できると思う。

【B委員】

小さい目標があれば、細かく分析でき、この年代はこういう結果になったので、ここをターゲットにこういうイベントをやろうなど、行動レベルの目標に繋がっていくと思う。

【事務局】

設定している数値目標については、ほぼ全部活動指標となっている。年代別の実施率のパーセンテージを数値目標の下の成果指標とすれば、結果から課題が出てくると思うので、次回の課題としていきたい。

【C委員】

先程の話と関連して、70%の指標を出して各イベントとの関連を振り返るときに、年代別で見るのは大事。各年代でどれくらい上げて70%を達成するかという計画を立てられるし、年度ごとに、年代に応じた反省もできる。

全体で70%という目標設定にしていると、細かいところが見えなくなり、打つ手のターゲット性も見えなくなる可能性がある。スポーツイベントをやって、参加者の年代を把握して次のアクションに繋げる振り返りが大事だと思う。

会議経過及び会議結果

【事務局】

進捗管理する上でも大事だと思うので、アンケートの取り方や、クロス集計のやり方を、皆さんに諮らせていただく。

【C委員】

同じ設問でアンケートを取らないと、単純な比較ができなくなる。実務レベルとして、次に繋げるための各年代のデータの数値があるといい。

質問だが、「多様な市民ニーズに対応した情報発信を行うため、関係機関と連携し」の「関係機関」というところは、具体的にどのレベルを指しているか。スポーツを行った理由の健康づくり・体力づくり、運動不足は上位項目になっており、40代・50代辺りから重要な要素となってくる。人間ドックや検診をいろんな企業がしているので、そこにイベントに関する情報発信を行う。さらに、親子向けのターゲットと独身向けのターゲットを分けて、親子向けにはこんなイベントがある、独身者向けには24時間営業の民間スポーツ施設を情報発信するというのが良いと思うので、関係機関にそれが含まれているか。

【事務局】

人間ドックをした後、落ち込んでいる人に情報発信をするのは非常に効果的だと考える。「関係機関」には、高松市スポーツ協会をはじめとした、市の中の関係部署というのも含めた意味で記載させていただいたので、効果的なピンポイントでの情報発信を検討していきたい。

【D委員】

言葉の表現と点の位置について、特色のあるスポーツイベントの充実の箇所で、「初心者やスポーツが苦手な人を対象とした気軽に行えるニュースポーツ・パラスポーツ」という表現は、誤解が生じかねないので、パラスポーツの前に文章を追記した方がいいのではというのが1点目。

2点目は障がい者のスポーツの推進のところ、数値目標の「ニュースポーツ・パラスポーツの振興に関するイベント件数」の「ニュースポーツ」が必要かどうか。これはあえて入れているか。

3点目は各種スポーツ団体等の活動支援のスポーツ選手の顕彰等について、パラスポーツ関連で活躍した人も対象になるか確認したい。

【事務局】

スポーツ選手の顕彰等について、パラスポーツ関連で活躍した人も対象になる。車いすフェンシングの阿部知里選手は表彰している。

【D委員】

スポーツ施設の整備充実の中に、誰もが使いやすい体育施設という表現が入っているという認識でいるが、文章上、ユニバーサルに対応したという表現があってもいいのではないか。

【事務局】

表現がわかりにくいと思いますので変えさせていただきます。数値目標のところ「ニュースポーツ」が必要かというところについて、ニュースポーツを行う際も障がい者の方を対象として受け入れておりますので、あえて「ニュースポーツ」を入れさせていただきます。

ニュースポーツとパラスポーツをセットでイベントを行っているんですが、ニュースポーツは比較的障がいがある人でも取り組みやすいということであえて入れております。

会議経過及び会議結果

【事務局】

スポーツ施設整備充実について、十分な質のサービス提供できているかなど、検証し、運用改善を図ります。という中に含めて記載したが、具体的なところが抜けているという感じがするので、表現については検討させていただきたい。

【E委員】

小学校の体育館が傷んでいる。トイレの改修なども予算の関係で後回しになったりする。積極的にパラスポーツを推進している地区については、優先的に改修をおこなっていただければ助かる。

【事務局】

年一回学校開放運営委員会があり、その会の中でも意見が出ていたので、教育委員会と連携を図っていきたい。

【F委員】

運動をしたい人の中で、自分で情報を検索できる人は、どこでイベントがあるかなど自分で情報を取得できるが、高齢者など情報が入らない中、生活している人が運動をしたいというとき、情報が入ってこない。どのように情報を発信するかについて考えたとき、年間のイベント計画をコミュニティセンターに置くだけでは効果がないので、コンビニやスーパーなどに掲示すればお金をかけずに情報発信を行える。細かいことをいえばQRコードを載せていけば、深いところまで情報を手に入れることができる。来年度以降、挑戦していただきたい。

【議長】

スポーツに関する情報発信の強化という言葉があり、この推進計画を作る前の段階から高松市報などについて御意見がありました。したがって、情報発信については大きな課題だと思いますので、いろいろな形で情報発信ができるように連携をしていきたいと思う。

【G委員】

検診に行った際、栄養などの指導を受けたいかという欄に毎回チェックをつけているが、一回も案内が来たことがない。他の委員からも意見があったように、医療機関から運動につながるように、簡単な健康チェックをして、興味があったらこんな勉強ができる場所がありますよという案内をして、運動が大事だから簡単な運動ができる場所がありますよという流れがあれば、運動に入っていくやすいと思う。病気になったりした場合に真剣に調べたりすると思う。

宣伝としても、医療機関にポスターがあれば市のイベントなどの情報も入ってくると思う。

【事務局】

医療機関と連携して情報発信を行うというのは、効果的なので、市でいうと保健医療政策課や健康づくり推進課と連携を図りながら情報発信の仕方やどこに情報発信を行うかなどを相談しながら進めて、次期計画の進捗状況を諮るときに、こういうことができましたよということをいろいろと出せるように、考えていきたい。

【議長】

健康づくり推進課と話し合う機会は、以前と比べて増えたので、さらに連携できるように考えたい。

会議経過及び会議結果

【H 委員】

各年代に応じた実施率向上に向けた取り組みが必要になる。じゃあどういう風にするのかということ、既存のイベントを見直す。これが一番大事なかなとすごく思う。既存イベントを見直す中で、どこをターゲットに絞るかというのはすごく大事だと思う。

もう一つ大事なのは、情報発信だと思う。この計画の冊子を配布する場所を聞いて、驚いた。こんなに良いことがいっぱい書かれていて、時間をかけて作っているのに、人の目に触れないと、作った側の自己満足だけで終わってしまう。そのためにも情報発信は大事。

高松市がやっているフェイスブックや LINE などあるか。

【事務局】

創造都市推進局がやっているフェイスブックと高松市の LINE があある。

【H 委員】

存在自体を知らなかったの、驚いている。それこそが情報発信が必要な部分だと思う。まずは市の LINE を登録してもらったり、フェイスブックを見てもらったり、そこから発信しないといけない。子どもが大きくなると、学校からチラシなどを持ち帰らないので情報が入ってこない。

特色あるスポーツイベントの充実というところの「初心者」はキーポイントだと思う。「スポーツが苦手な人」という表現が引っかかっていて、置き換わる言葉は何かあるか。

【C 委員】

苦手な人という言葉によって、苦手な人のハードルが下がるという側面がある。例えばトレーニングジムは体が仕上がった人が行くところというイメージがあったが、最近では、私服で10分間でも行っていいですよという進め方をしていたりする。そういう形で、苦手な人というターゲットが実はあって、学校教育の現場でも使用するし、発達障害を持つ子どもたちの苦手とか不器用という言葉を使うことがある。戦略として、「初心者の人」は初めての人たちが集まり、「苦手」っていうのは、苦手な人が集まってくる。ネガティブな言葉だが、門戸を広げて、そういう人たちが行きやすくなる。

【D 委員】

「ニュースポーツ・パラスポーツ」にそれがかかっているのが違和感がある。表現上の問題だと思う。

【事務局】

ここの表現は、現行計画にはない表現。なぜ入れたかということ、70%を達成するためには、初心者などを掘り出して、どうやって引っ張っていかうかと考えたときに、気軽に行えるニュースポーツ・パラスポーツを市でも普及啓発に取り組んでいるので、その気持ちも込めて入れさせていただいた。

【D 委員】

パラスポーツは誰でもできるという側面はあるが、競技スポーツをされている方からすると、この表現は抵抗感がある。

【事務局】

先程も申し上げたが、ここは表現を修正させていただく。

会議経過及び会議結果

【議長】

高松競輪場の高松というワードは必要か。総合体育館やヨット競技場は高松がついていない。

【事務局】

他の計画の言い回しなど確認させていただき、再考させていただく。

【議長】

市スポーツ協会や高松市スポーツ協会など、表現が統一されていない。もし、高松市スポーツ協会にするのであれば、（公財）をつけて、正式名称にしてほしい。

【事務局】

表現を統一させていただく。

【B委員】

アンケート結果で、高松市スポーツ推進計画の認知度が非常に低かった。冊子化されたときに、医療機関に置くのがいいと考える。スポーツ施設はすでにスポーツをしている人が来るところなのでわざわざ置かなくてもいいのでは。スポーツに縁遠い人や障がいのある人の目に入るように重点を置いて普及してほしい。

【議長】

おっしゃるとおり、アンケートの結果では計画の認知度8%と非常に低かった。ポスターなどを作成して掲示したが、成人の週1回以上のスポーツ実施率70%のことばかりアピールしてしまった。計画に基づいてこんなことをしていますよというのを作成できればいいと思う。

また、冊子は400人程度の人にしか行き渡らないので、計画の抜粋版を作って掲示するという作戦ができたらと考えている。それを4年間やって、またアンケートを取れたらと思う。

【G委員】

県外から子育て世代のときに来た時、高松がどういうところか一番わかったのは広報高松の広報紙だった。イベントや子どもの習い事についてもわかりやすかった。それが、今はそういう情報が広報紙に掲載されなくなっているの、高齢の人にどうやって情報を手に入れたらいいかわからないとよく言われる。若い人はSNSなどで自分で調べることができるが、高齢の人はアナログなので自分で調べることができない。そういう情報が、手に取って見れるようなものがあればいいと思う。

また、コロナで情報が途絶えてしまった面はあるが、夏休みのランポリン教室を久しぶりに募集したときにすごく人気の教室だったが、参加者が1桁台だった。いつもたくさん集まるからと、情報発信をあまりしなかったの、情報の力はすごいと感じた。自分たちで作成したポスターを総合体育館に置こうかと反省した。誰でもわかりやすい情報発信の仕方をぜひ考えていただきたいと思う。

【議長】

スポーツ関係については、情報誌の会社アプローチをとって、いくつか載せてくれるが、定期的に載せてもらうとなるとお金が発生してしまう。市報に載せるということは難しいか。

【事務局】

以前のように戻すというのはかなり難しい。

会議経過及び会議結果

【事務局】

先程の高松のLINEについて、LINEは高齢者の方も家族間で使われたりするので、ぜひLINEを登録していただけたらと思う。高松市のLINEは必要な情報だけ選べる。子育て情報が欲しい、スポーツの情報が欲しいというのを自分で登録して、必要な情報だけ通知が来る。

いろんな情報を探すよりも、登録しておけば、スポーツの情報が自動的に欲しい人に行くので良いツールだと思う。活用していくためには、LINEの登録者数をまず増やさないといけないので、教室で広めたり、わからないという人にLINEを登録してもらい、登録者数を増やすのと、情報を載せていくというのを、両方の面からすれば、今まで探さなくてはいけなかった情報が直接、欲しい相手に届くので良いと思う。

【F委員】

委員が初めて知って驚いている。市民が高松市のLINEを知るシステムを急ぐと思う。マスメディアを使った発信をしてもらうなど。

【事務局】

高松市がLINEを開始したとき、市長が定例記者会見で発表をしている。そのときはテレビが取り上げてくれる。だが、市民の方に周知啓発となると、継続的にしていかなければならない。この計画の概要版を作るというのを検討していくというがあるので、概要版の中にはLINE登録などの情報発信を入れていくことを検討していく。

【F委員】

校区のLINEグループでも最近高齢の人がLINEを登録してくれ、LINEグループに入ってくれた。高齢の人でも新しいものを取り込むか取り込まないかの差だと思う。

また、有名なスポーツ選手を招いて講演会をする予定だが、スポーツをする以前に健康でなければならぬので、医大の先生にも講演をおこなってもらう予定。幅広い層にきてもらうため、小学校の全校生徒に案内を出して、いろんなスポーツに絡めていくため、人間付き合いをしようと思い、企画した。来年以降もやる予定だが、どう繋がっていくか試験的にやっている。

【議長】

本日の審議の中で出た検討事項については、私に一任させていただき、事務局と今後詰めていく。

8月25日の会議で、大西市長から次期高松市スポーツ推進計画（案）の策定について、諮問を受けている。これに対する答申案についても、私が市長へ答申を行うので、御了承をお願いしたいと思う。

他にないようであれば、事務局から連絡事項があるので周知をお願いしたい。

【事務局】

今後のスケジュールについて説明させていただきたい。修正箇所が何ヶ所か出た場合、会長と御相談させていただき、決まれば、書面等で、委員の方々に申し合わせしたいと考えている。

また、先程、会長からありましたとおり、来週、市長への答申を行っていただき、その後、政策会議で諮る。その後、教育委員会にも諮らせていただく。その後、議会を12月に予定している。1月にはパブリックコメントを予定している。その後、3月中に計画策定という流れで事務を進めさせていただきたい。

会議経過及び会議結果

5 大西会長（議長）閉会宣言

全ての議事が終了したことを確認し、大西会長（議長）が閉会を宣言し、閉会した。